2013年度次世代WS

文化多様性に学ぶ環境教育

企画責任者　飯塚宜子（NPO法人平和環境もやいネット事務局長・同志社大学総合政策科学研究科
ソーシャルイノベーション研究コース　博士後期課程1年）
共催　NPO法人平和環境もやいネット/ 京都市左京区朝カフェ自然と文化を大事にするグループ
京都府地域力再生プロジェクト支援事業（トリップ5　京都の森へ行ってみよう！）

目的

●「人と自然の関係」を地域研究の視座から子どもたちの感性に問いかける「文化多様性に学ぶ環境教育プログラム」開発と実践を通し、**地域研究と市民社会をつなぐ実践モデル**を構築する。

●異なる社会経済環境下の４つの地域における生態環境と伝統的知識の継承、コミュニティ、土地や動物との関わり等の学びを分析し、その学びの実現可能性の実証を試み**「人と自然の関係」に関わる次世代の学びの可能性を提示する。**

①プレWS (9月24日)

会場：京都大学稲盛財団記念館
ブレーンストーミングの実施
高野孝子（特定非営利活動法人ECOPLUS)
生方数史（岡山大学理学研究科）
阿部健一（総合地球環境学研究所）
内藤大輔（総合地球環境学研究所）
森田芳文（京都府文化環境部）
振本ありさ（同志社小学校）
新川達郎（同志社大学総合政策科学研究科）
中野民夫（同志社大学総合政策科学研究科）
小林舞（京都大学地球環境学舎）
山本博之（京都大学地域研究統合情報センター）
王柳蘭（京都大学白眉センター）

②プログラム開発WS（10～12月）

それぞれのフィールド体験からプログラム開発。
木村友美、大石高典、山口未花子、
山田勇、中野民夫、飯塚宜子

③実践WS　『京都で世界を旅しよう！2014』地球たんけんたい

食べ物、民族衣装、楽器、動物の毛や骨などの五感に訴えるモノ、物語のような展開、写真、動画等により、フィールドワークを疑似体験し感じたことを語り合う参加者一般公募のワークショッププログラムを若手地域研究者と共に開発・実践、および京都の森を守る伝統のコミュニティを訪ねるフィールドトリップを実施、のべ170人（スタッフ含む）の参加を得た。

1日目　11月30日（土）会場：京都大学稲盛財団記念館

トリップ１『大草原！羊と旅する女の子』（モンゴル遊牧民）実施者：飯塚宜子（同志社大学総合政策科学研究科）

トリップ２『わたしの家は雲の上』（ヒマラヤ/チベット族）
実施者：木村友美（京都大学東南アジア研究所）

2日目　12月7日（土）

トリップ３『森でゴリラに会ったら、どうする？』（カメルーン/ バカ・ピグミー族）実施者：大石高典（京都**大学**アフリカ地域研究資料センター）

トリップ４『ボクはオオカミ族』（カナダ/ 北米先住民トリンギット族・カスカ族）実施者：山口未花子（北九州市立大学）

3日目　12月14日（土）

トリップ5　『京都の森へ行ってみよう！』北山杉のふるさと・京都市中川北山町へのフィールドトリップ　実施者：山田勇（京都大学名誉教授）・中川北山町地域振興協議会

④最終WS　2014年2月6日

会場：京都大学稲盛財団記念館

『生物文化多様性に学ぶ環境教育–エコソフィ–に学ぶ意義と可能性を考える』を開催、市民、行政、他研究科学生、海外からの地域研究者等、幅広い立場からの意見交換を実施した。

⑤結論と課題

高度な科学技術・情報化社会に向かう次世代の子どもたちに「人が自然から切り離されない生き方」と、そこに内在する価値をどう伝えるか。この問いかけに、地域研究の知見と手法から応えるプログラム開発と実践を試みた。４つの地域のフィールドワークを疑似体験するワークショップを通し、伝統知、生態知、人々が尊重するものなどを可視化し、単なる情報伝達では無い、感じて話して考える学びの場の創出を試みた。今後さらに、エコソフィ—に学ぶ意義と方法論の実践研究を通して、地域の知を生かす、地域研究と市民社会をつなぐ環境教育モデルの構築をすすめていきたい。